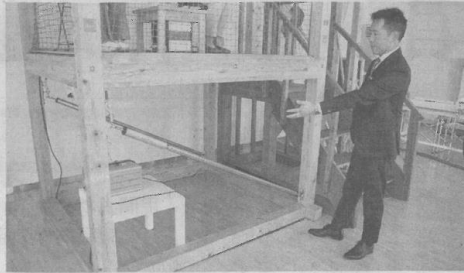
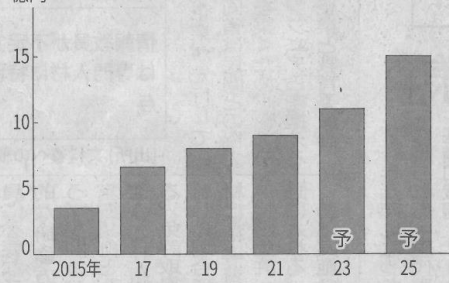


# 車技術で地震の揺れ吸収



鋼製の部材が自動車のサスペンションの役割を果たし、地震の揺れを吸収する

制振装置の販売は右肩上がりに伸長



静岡

## 浜松のエヴォルツ

アルミ建材の千博産業に15億円の売り上げを目指す。(浜松市)が分社化した。

年ほどで制振への認知が広がり、家を建てる時に考慮されるようになってきた」と話す。

指す。地震対策で一般的な耐震が建物をつくり、制振は建物内部に部材を取り付けることで揺れ自体を吸収する。耐震性の高い住宅でも地震が何度か起きると、接合部分が緩むなどの徐々に建物が傷む原因になる。エヴォルツの渥美幸久社長は「この10年ほどで制振への認知が広がり、家を建てる時に考慮されるようになってきた」と話す。

同社が展開する制振装置「エヴォルツ」シリーズ(1棟分で約80万円)は長さ2・2メートルの鋼製の部材で、柱と柱の間に斜めに設置する。延べ床面積100〜125平方メートルの住宅の場合、1階部分に6本ほど使う想定だ。

渥美幸久社長は「この10年ほどで制振への認知が広がり、家を建てる時に考慮されるようになってきた」と話す。

## 木造住宅向け制振装置強化

部品「ショックアブソーバー(油圧式ダンパ)」の仕組みを応用し、製造大手の独ビルシュティン社で開発に当たった人材を迎え入れ、千博産業の一事業だった頃の15年に開発した。名城大学が研究で協力した。

ショックアブソーバーの基本構造を採用しつつ、何十回も試作するなか、細部に試行錯誤を重ねた。それまでの制振装置は大きく揺れた場合に揺れを止めようとする減衰力が働くのが一般的だったが、小さな揺れでも大きな減衰力を発揮できる仕組みにした。製造はビルシュティン社と浜松市の企業に委託する。

エヴォルツは千博産業が10月、制振装置事業を分社化し設立した。企画・開発や販売を担う。制振装置の売り上げは14年、2億円から21年の9億円に大きく伸び、千博産業の売上高の約8割を占める事業に成長した。伸び盛りの事業に経営資源を集中させ、意思決定も速める。渥美社長は千博産業の社長を兼ね、新設した持ち株会社が両社を束ねる。

制振装置は主に中小の住宅会社を通じて販売する。大手ハウスメーカーが目前で制振装置を手掛けるなか「大手以外の市場に商機がある」(渥美社長)。展開先を全国に広げており、9月には大阪に営業拠点を新設した。本社には揺れを発生させ製品の性能を体感できる。製品を取り扱う住宅会社の全国約40拠点でも体験できる。

23年初夏には新製品を発売する。サスペンション部分の長さを42センチから47センチに延ばす、などにより減衰力を約25%高め、現在年間約3500棟で採用されており、25年に5000棟を目指す。(北戸明良)